

～カラと～アト

1. 問題

- (1) a. 朝ご飯を食べ {てから/たあと} 走る。
b. 一回家に帰っ {てから/たあと} 公園に集合しよう。
- (2) a. ポチが死ん {でから/*だあと}、この家はまるで火が消えたようだ。
b. 口の中のものを飲み込ん {でから/*だあと} しゃべりなさい。
- (3) a. 犯人は山田さんの頭部を殴打し {*てから/たあと}、首を絞めて殺害した。
b. 示談にし {*てから/たあと} 首が痛くなった。
- (4) 問題：カラとアトは何が違うのか？そして、どのような使い分けができるのか？
- (5) カラ
a. 条件のカラ：B の成立の前提として A が発生し、成立する/したという解釈を持たせる
b. 起点のカラ：B の発生（開始）時点が A の成立時点にあり、B が時間の幅をもった「期間」の事象であるという解釈を持たせる
- (6) アト
A が完了し、その後に B の結果が成立する、または B の結果を成立させるという解釈を持たせる

2. アトよりもカラが適切な場合

(5)と(6)より、必ず前件を踏まえた上で後件が起こるという認識を与えたい場合にアトを用いると、前件と後件の条件的結びつきが弱まり、容認度が下がることになり、そのような場合には、カラのほうが適切となる。

- (7) a. 手を洗っ {てから/*たあと} おやつを食べなさい。
b. お酒は二十歳になっ {てから/*たあと}。

また、後件が期間をもった継続性のある事態である場合、アトには後件の継続性を表す性質はないので、カラが適切となる。

- (8) a. 子供が生まれてからずっと禁煙している。
b. 6月に入ってから雨が降り続けている。

3. カラよりもアトが適切な場合

これに対して、前件と後件の時間的前後関係のみに着目し、前件と後件をそれぞれ成立させるという認識を与えたい場合は「アト」を用いたほうがよい。前件と後件の関係性が薄い場合は、カラを用いると無理矢理条件的結びつきの意味がもたらされて不自然な解釈になるからである。

- (9) a. 犯人は山田さんの頭部を殴打し {*てから/たあと}、首を絞めて殺害した。
b. 示談にし {*てから/たあと} 首が痛くなった。
c. 洗濯物を取り込ん {*でから/だあと} 雨が降って来た。

4. カラとアトが入れ替え可能な場合

(7)は、後件が成立性をもった事態、すなわち出来事ではない場合であった。しかし、後件が出来事であり、それに加えて前件が後件の必要条件でない場合においては、カラを用いるとその性質により「前件を踏まえた上で、後件が発生した」という意味が生じるが、その条件性は前面には出て来ず、単純な時間的前後関係を示す意味合いが強くなり、アトとの入れ替えが可能となる。

- (10) a. ノックし {てから/たあと} ドアを開ける。
b. 二週間経つ {てから/たあと} 田中さんが山田さんに手紙を送った。
c. 作文を書く時は、あらかじめ大筋を考え {てから/たあと} 書く。

5. 先行研究との違い

工藤 (1992), 水野 (2001) ... (7b)を説明できない

杉本 (1996) ... (2)でアトが使えない理由が説明できない

参考文献

工藤真由美(1992)『現代日本語の時間の従属複文』横浜国立大学人文紀要.第二類,語学・文学
39,169-192,1992-10-30,横浜国立大学

杉本和之(1996)『「～たあとで～」と「～てから～」』愛媛大学教育学部紀要.第Ⅱ部,人文・
社会科学.vol.29,no.1,p37-44

水野マリ子(2001)『「～てから」と「～たあとで」：文の切れ続きに関する考察』神戸大学中
学生センター紀要,7:71-79